

R18
★★★
CAUTION!

Adults Only

♂ ♀
FTNR

! AF描写有り

あ
な
ま
は
い
は
な
い

Fire Emblem : Three Houses unofficial funbook
Byleth x Rhea

ADULT ONLY
R 18

18歳未満の購入・閲覧禁止



『あなたはわたしの』本編52p前後の行為の続き(?)になります。

暗転後のえっちの部分をやや補完するような薄い内容です。

△△ 突然お尻にいれてるところから始まります。 △△

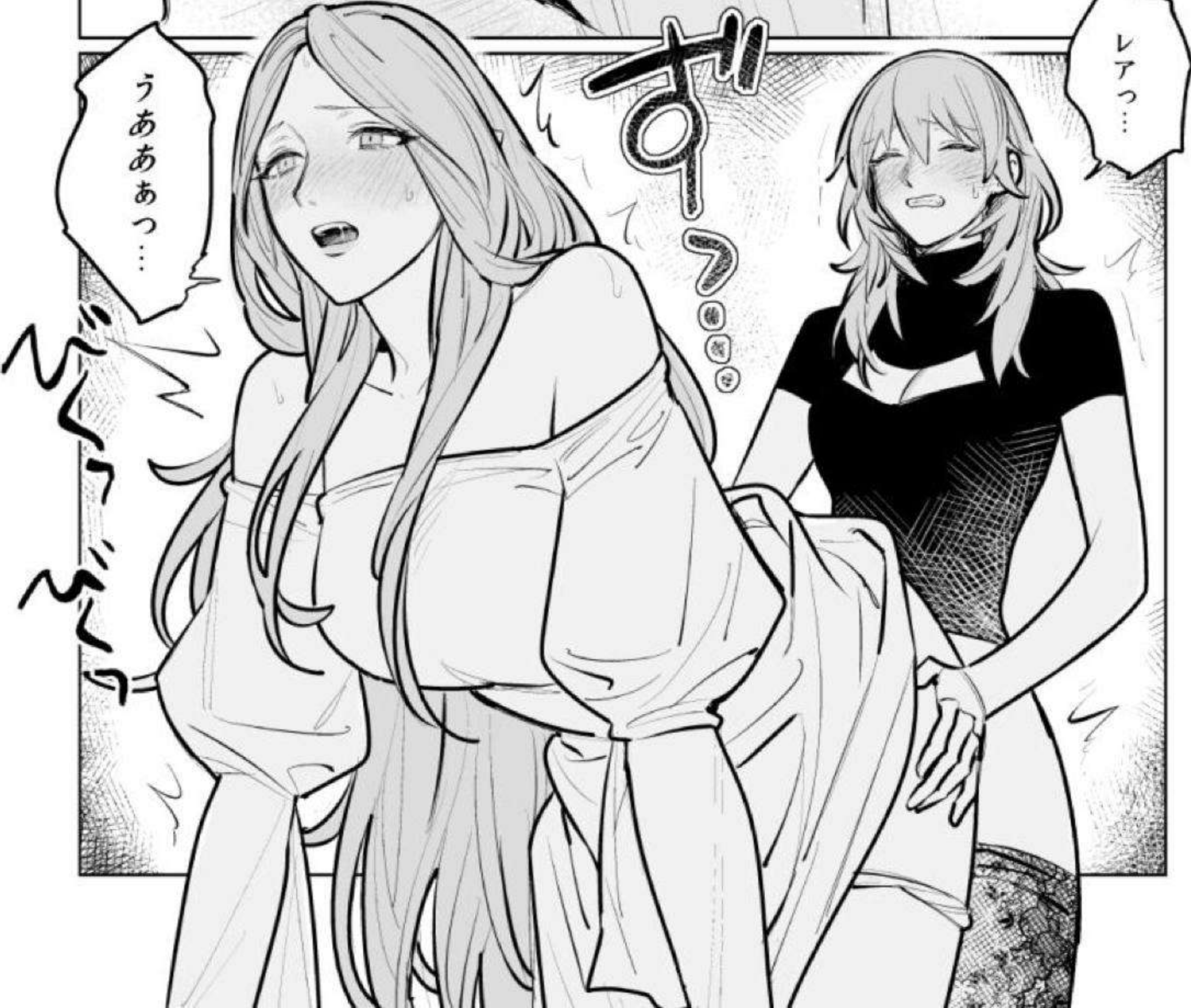


レア…
ごめん
もう一回…っ



あ、んうっ…
ベレス、
待って…っ

そんな…
今の彼女に
どれだけの
体力が…



レアっ…

うあああっ…

すず

精液で…
中が滑るっ…

ぬちゅ…

ぬぶっ…

あ…っ

ああ…ベレス…
そんなに夢中で
腰を動かして…

はあ…

あっ

やっ…

いっしょに

レアのなか
あった、かくて…
気持ちいい…っ

ううっ

くっ

また…
出そ…っ

うああっ…

レアっ…

ひやっ…

んんううっ…
ベレスう…っ

いっしょに

いっしょに

いっしょに

いっしょに

はあっ

肌、声、髪、体温

なぞる様に
ひとつひとつ

彼女を心に
刻み込む

はあっ



はあ

はあ

はあ...

はあ...

それらを
反芻する
そのうちに昂り
身体中に
熱い血が滾る

はっ...

はあっ...
ベレス...

ああ...レアと
混ざり合って
ひとつの個体に
なれたなら
どれほどの
幸福だろうか...

薄暗い部屋に居た

ザシ

はあ

空気でわかった

自分の部屋だ





はあ

温かく
湿った肌に
舌を這わせ

はあ

ちゅん

くちゅん



はあ

その瞬間の自分は

まるで

はあ



柔らかな肉に
触れている

はあ



まるで
獣のように



はあ

飢えていた

ベレス…

深く響く
その声を
よく知っていた

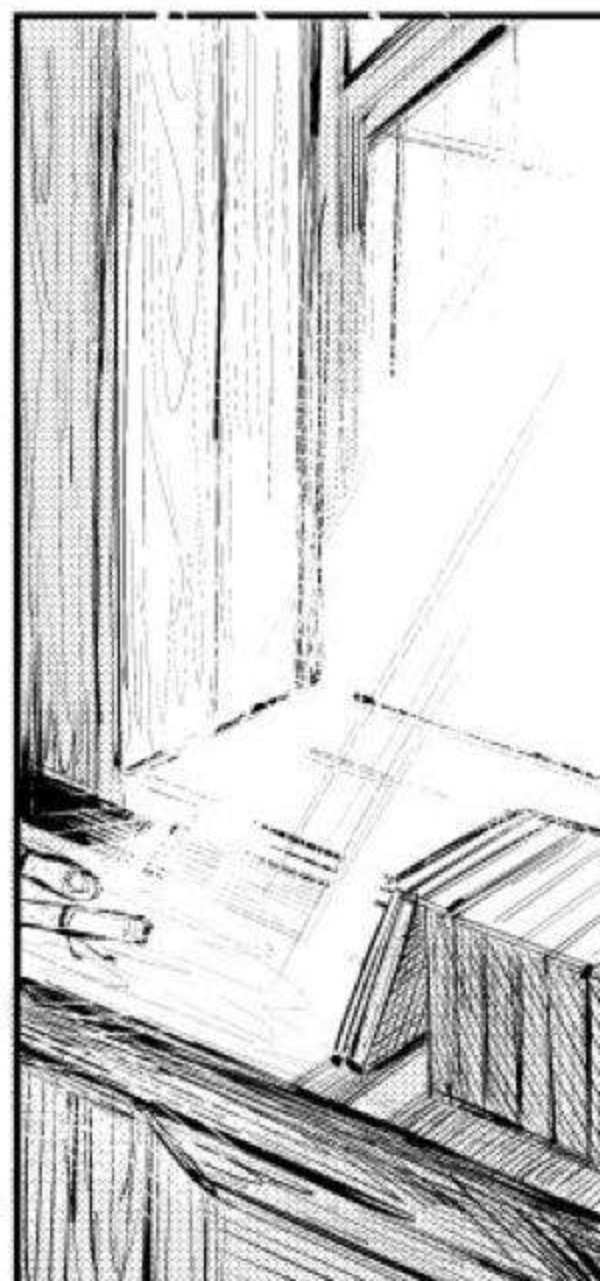
ああ…ベレス…
もつと…

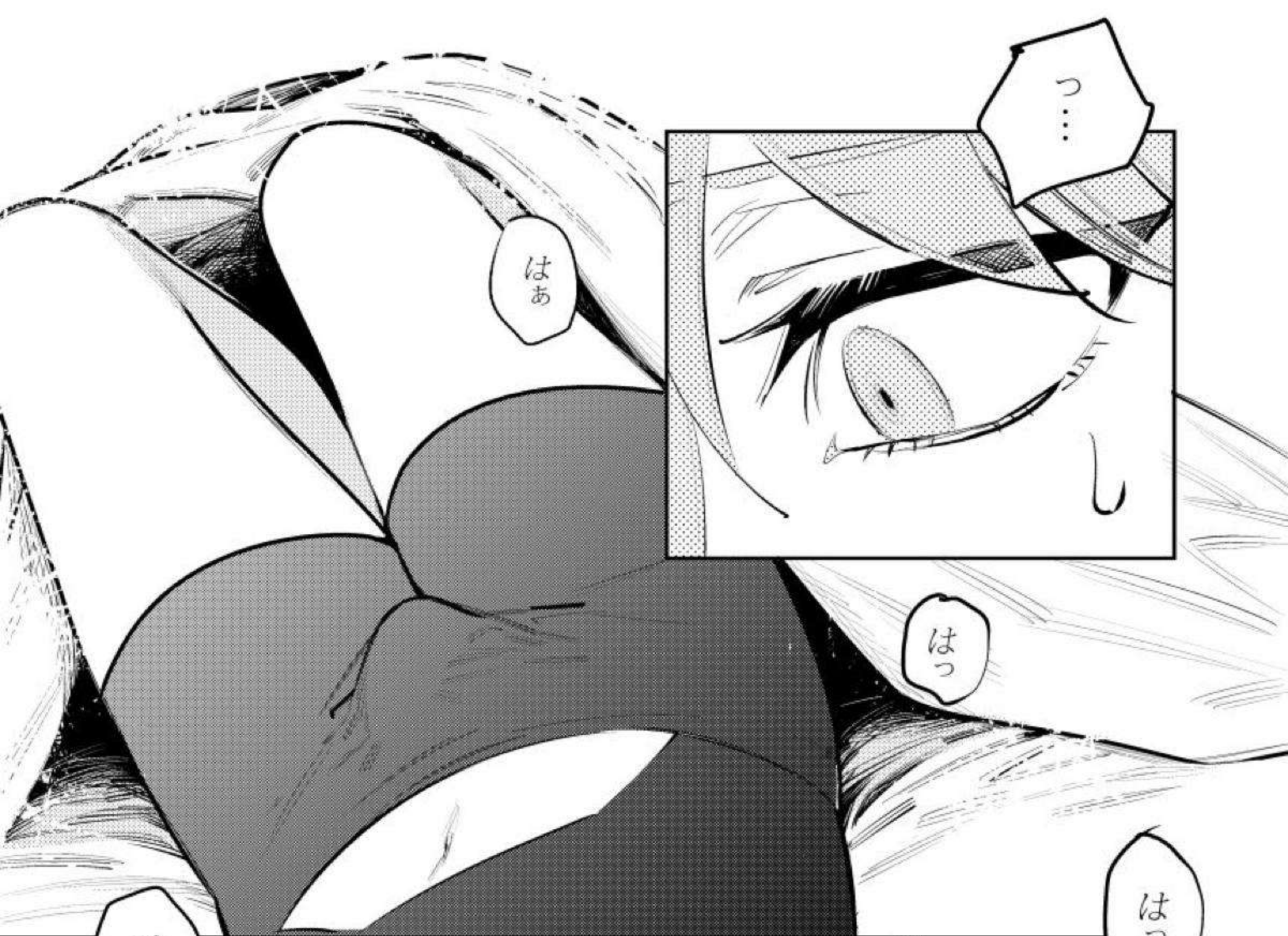
もつと
ください…

間違えようがなかった



——…夢？







はあっ……

はっ……



これから
訓練場で
カスパルと
手合わせを
するのだが

先生も一緒に
どうだろうか！

フェルディナント
おはよう

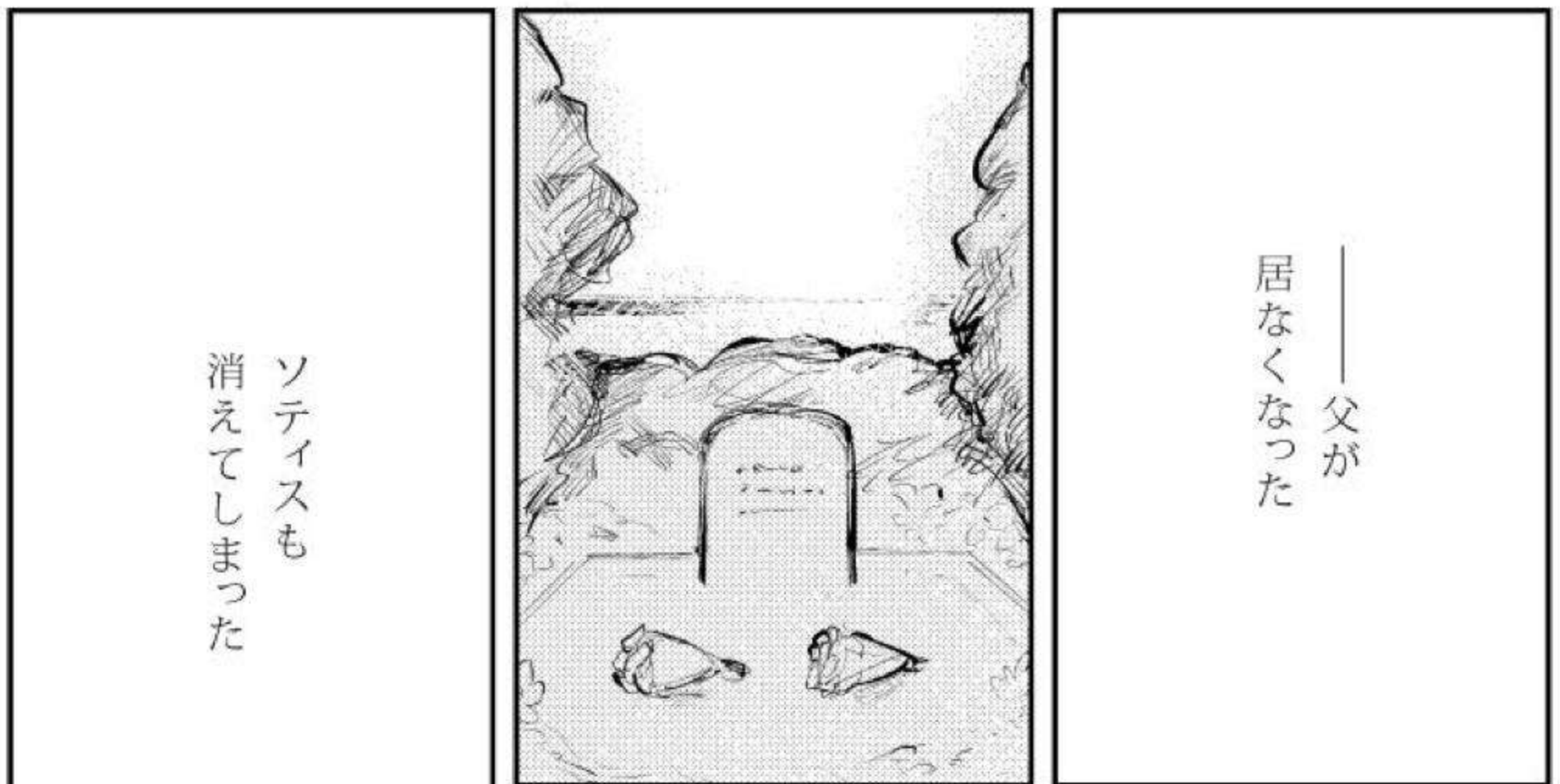


先生！
おはよう！



これから
少し私用が
あるんだ

また次の機会に
させてもらうよ



——父が
居なくなつた

ソテイスも
消えてしまった




もう
大丈夫だと
思うようにした
そう振る舞った


かつて
あなたと
同じように
私も母を…
奪われました

哀しみは
乗り越えて
今はただ—

あなたの
心の傷が
どうか
癒えますように…

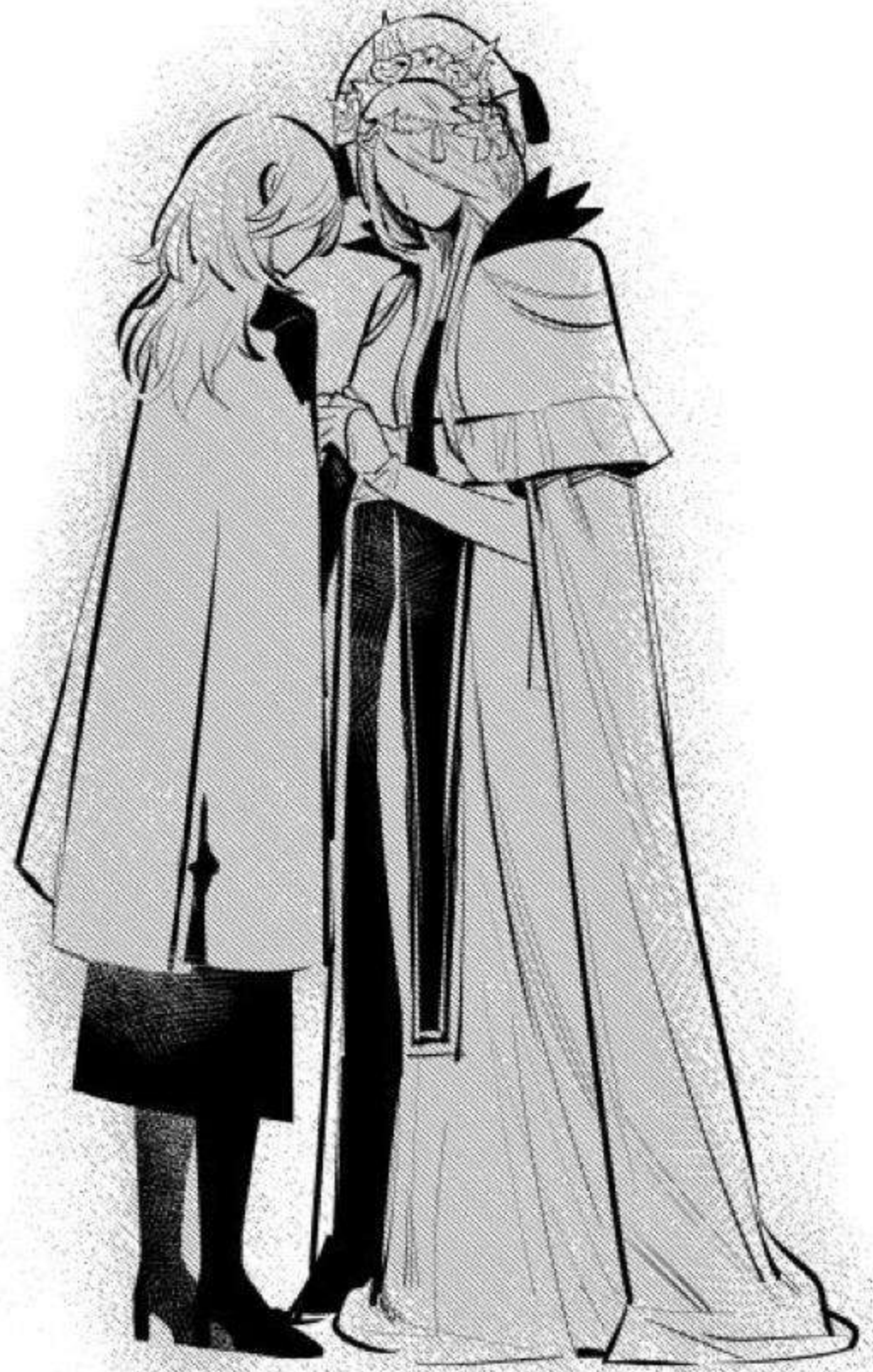


握る手は
とても
温かった



救われた
気がした

同じ痛みを
わかつひと



胸のなかで
何かが滲む

淡い光の
ように思えた

これは

知らない
感情だった



どうぞ



アハハハ







相談するべきか
迷ったんだけど…
他の人には
話せなくて…

え、と…



レアにしか…

その…

まあ…



それなら…
見てもらう
方が早いかな…

ああ…もうっ
いいのですよ
どんな事でも
頼ってください…!



え…
え…
ベレス…!?



ペレス…!?

おろ



ええ?

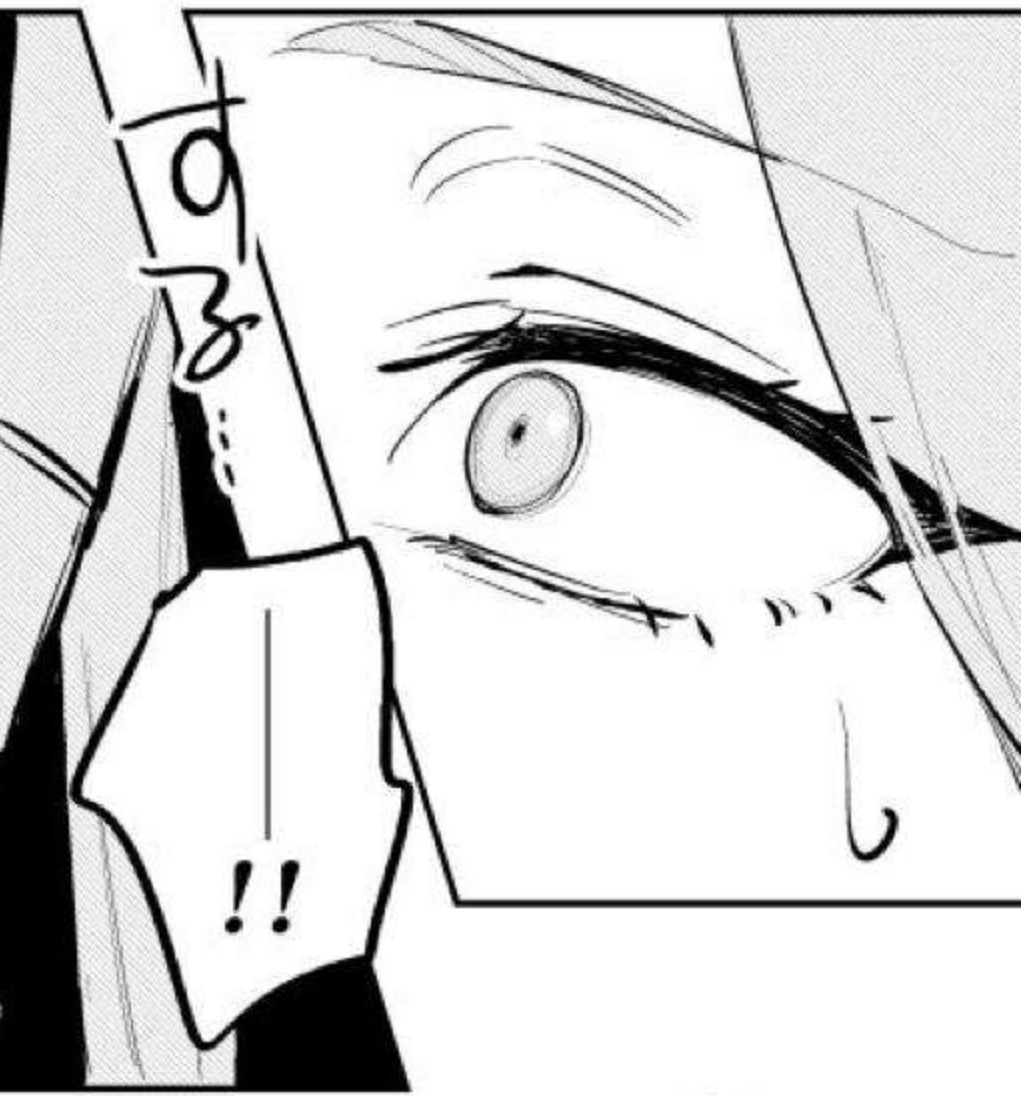
えっ

カキヤ

カキヤ



それは…



おろ

!!



今朝、起きたら
こうなってたの

生徒たちに
知られる
わけには
いかないし

レアなら…
もしかしたら
何か知っている
かもと思って…

何が何だか
わからないけど



その…それが
暴走の枢軸と
するならば…

過剰な熱を
体外へ逃がす
というように…

……
……
あの

ぐぐ…


気のせいかも
しれませんが…

先程よりも
大きくなって
いませんか…？


でもすごく
熱くて…

変な
感じがする

そう…なのかな
わからない…



レアといると
胸の奥が熱くて
少し苦しい…




ああ……
ベレス……
なんてこと

……だから、

あなたの
その熱は
全く別の……

ま、待って……
それ以上は
言わないで

けれど……
わたしは
あなたの——



レア
自分は……

お願い
何も……
言わないで

私の大切な……



本当に……大切な……



ベレス：
何も心配は
ありません



それなのに
あなたと私が
そうあつては…



あなたが
今こうして
苦しんで
いる以上…

すべて元に
治まるまで



私がしっかりと
お手伝いします



あなたは
わたしの

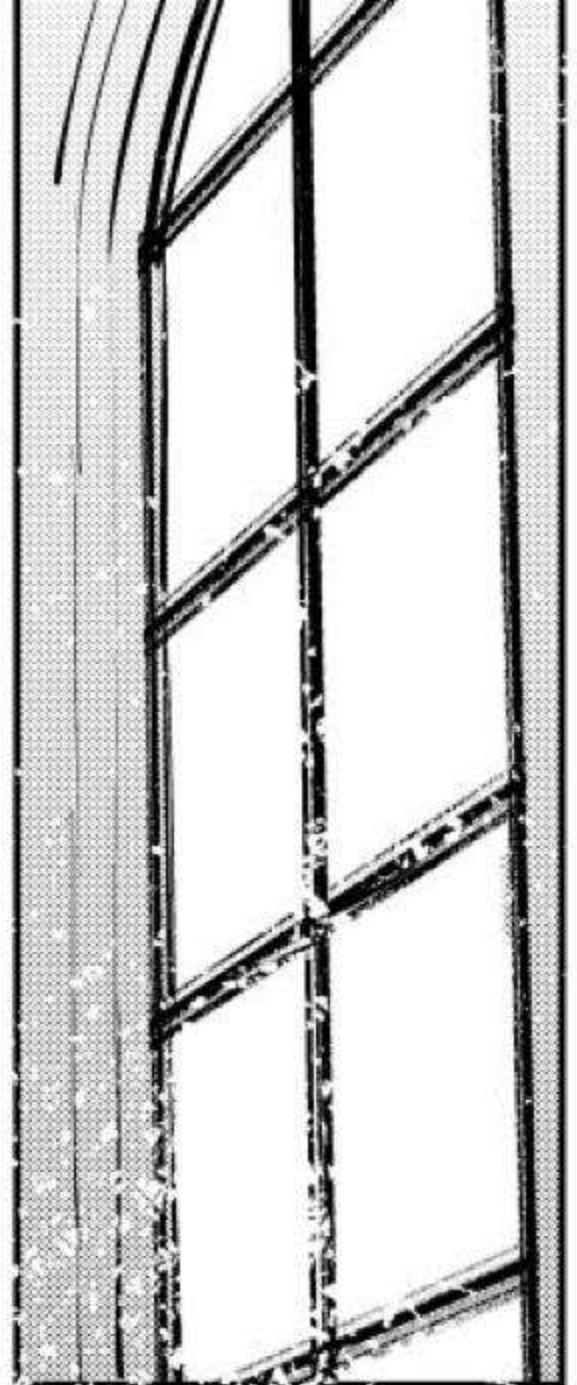


ここにいて
ほしい

うん…



…本当に
見ているだけで
よいのですか？



えっ
でもこんな
上等な布…

直接触れるのは
怖いでしょ…？



あの…
よければ
この手拭を
使って
ください



…

それなら…
レアが嫌で
なければ

布越しに手を
添えていて
くれないかな…

動かさなくて
いいから

…だめ？

ベレス…

こう、ですか…？

ええ…

わかりました

んん…







大丈夫…

よし



うんう…
ふうふう…

大丈夫…、
大丈夫ですよ
こういうもの
ですから…



はあっ



うわっ…
ごめん…

はあ

レアの…
綺麗な布
汚しちゃった…



す…
…

はあっ

はあ

はあ…



うん…



いいですよ
少し落ち着き
ましたか…？



ありがとう…



だけど…
これで
消えるのかな

それはまだ
分かりません…
ですが、

また…
困った時は
私を訪ねて
ください

それから

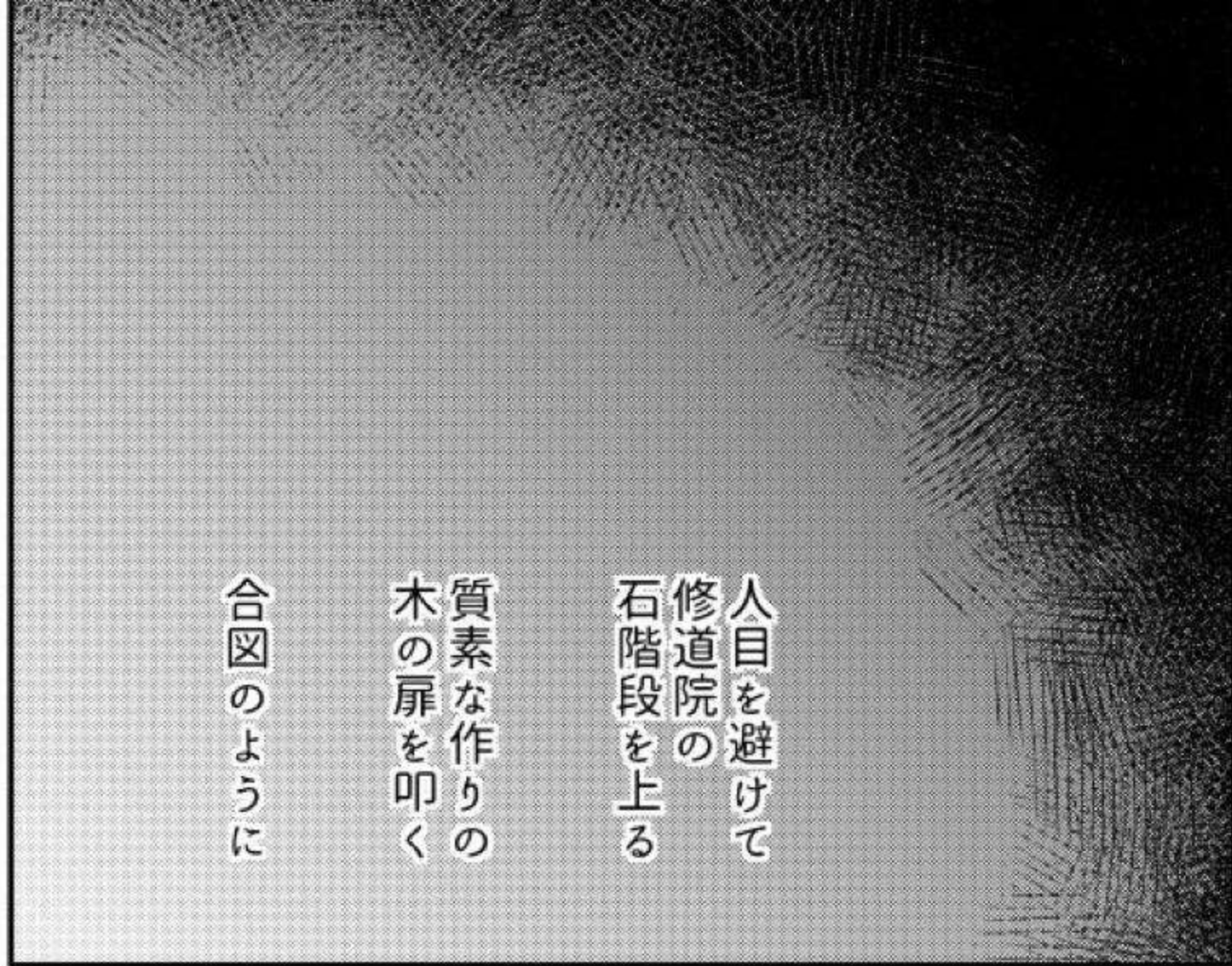
何度もレアの
もとを訪ねた

何度も

けれども

身体の変が
消えることは
なかった





人目を避けて
修道院の
石階段を上る
質素な作りの
木の扉を叩く
合図のように



ぶっ…

はあ…



ん…ぶ…

っ…ん…



は、っ…
うう…

うああ…
レア…



はあっ…

ベレス…

どう…です…？
気持ち、いい
ですか…？

うん…

なんだか…
すごく頭が…
熱くなる…



っ…ふっ…

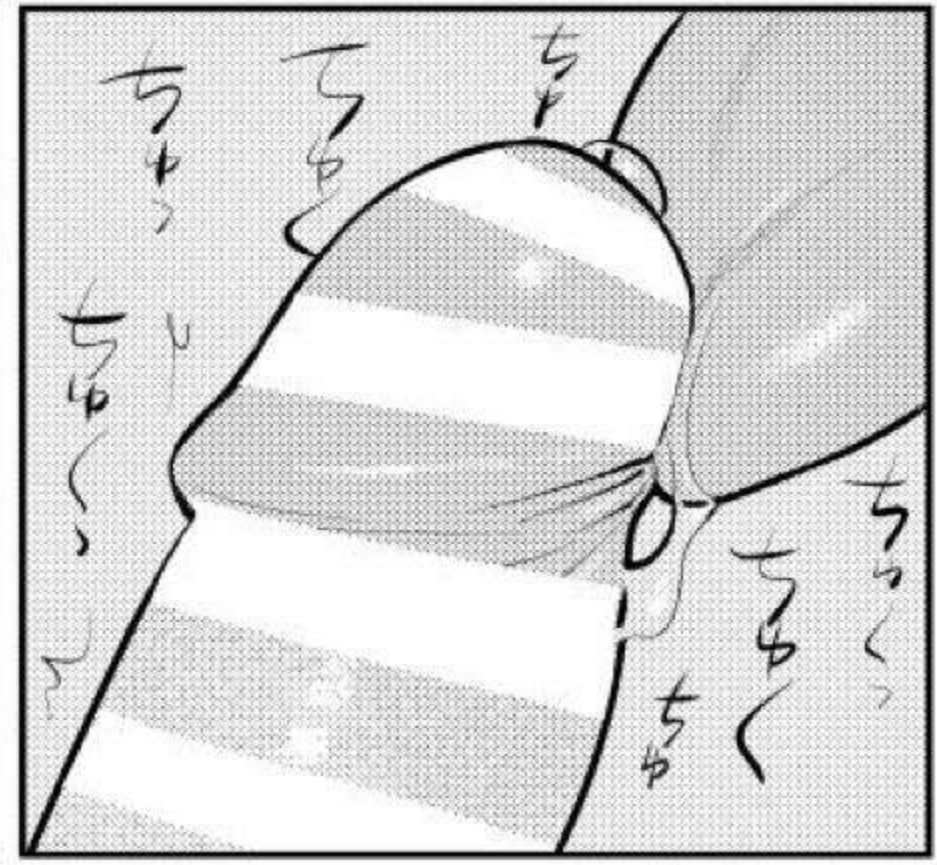
ね、レア…

そのまま…
先のところ
啜えて…？

ふっ…
んっ…

ベレスの
匂いと…

嗅いだ事の
ない
濃厚な匂いが
混ざり合って…



んっ？

えっ…？
いまの全部
飲んだの…？

あ…の…
つい…

こぼして
しまいそう
だったの…

本当に
ごめん

不快なこと
させて
しまって…

いえ…
不快などでは…
それに…

あなたが
満足して
くれるのなら

私は…



この身を裂く
ような感情は
一体なんだと
いうのだろうか

自分はただ
甘えている
だけなのに

悲しみも痛みも
レアが拭って
くれたのに

ふとした瞬間
泣きそうになる





あ…いえ
先生…

近頃、先生
疲れている
います

大丈夫…
ですか？

！
ペトラ
何かあった？

今も、顔色悪く
みえます…

えっと…
そうかな？

なんとも
ないんだ
心配をかけて
しまったね

こんなでは
教師失格だ

それじゃ

急ぎの用を
済ませたら
戻るから

生徒に秘密を
隠すつもりが
むしろ心配を
させている

わかってる…

わかって
いるのに…

このままでは
いけないなんて

そんなこと
わかってる

自分は

気でも
狂ったの
だろうか

恐ろしいほど
大きな感情に
突き動かされ
そうになる

自分の中に
知らない自分が
いるみたい

あらゆる感情が
緋い交ぜになる

レアに
会いたい

片時も
離れて
いたくない

レアに
触れたい

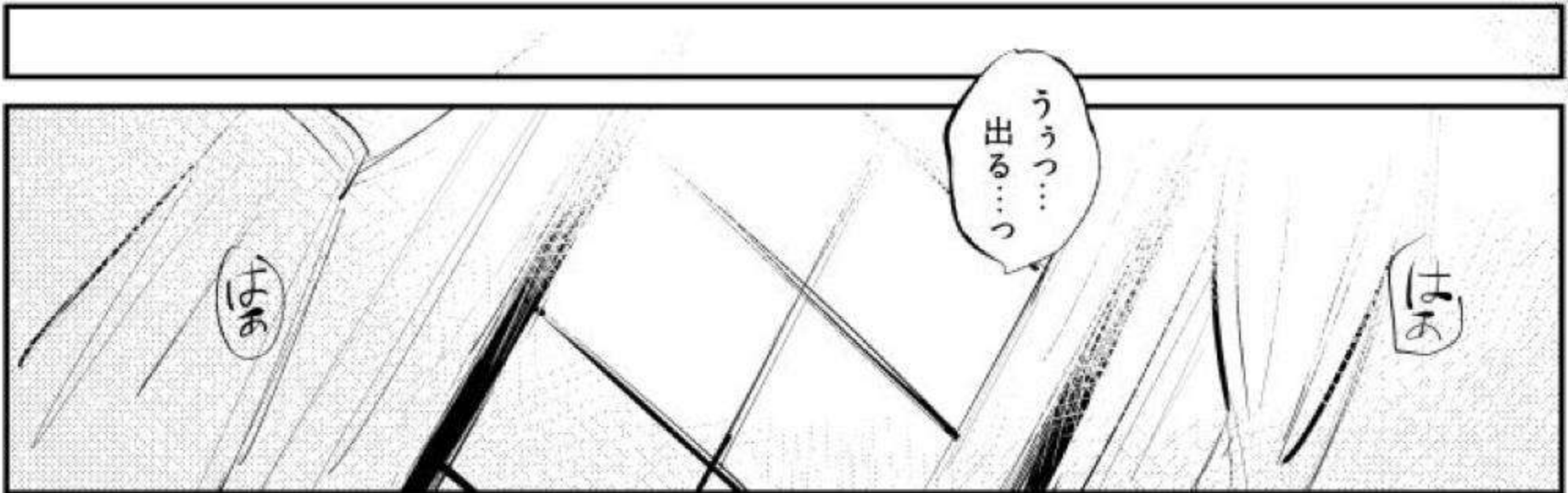
レアに
触れてほしい

優しいあの人を
穢したくないと
必死に抑え込む

レアの
内側に
入りたい

レアの
全てが
欲しい……







う、ううん
なんだか
変なんだ…

はあ

もう何度も
してくれて
いるのに

まだ
こんな…っ



如何です？

これで…
落ち着き
ましたか？



まあ…

大丈夫ですよ
ではもう一度
しましょうか



今のままじゃ
もどかしくて
切ない…

お願い…
レアの中に
入りたい…



レア…っ



この先は
だめ…？

ね、レア…

ペレス…

この、先？

ま、待って…

待って
ください



フスマン

つまり
それは…



トクン…

ああ…

ベレスが私を
欲するたびに
体が…勝手に
反応する…

トクン…

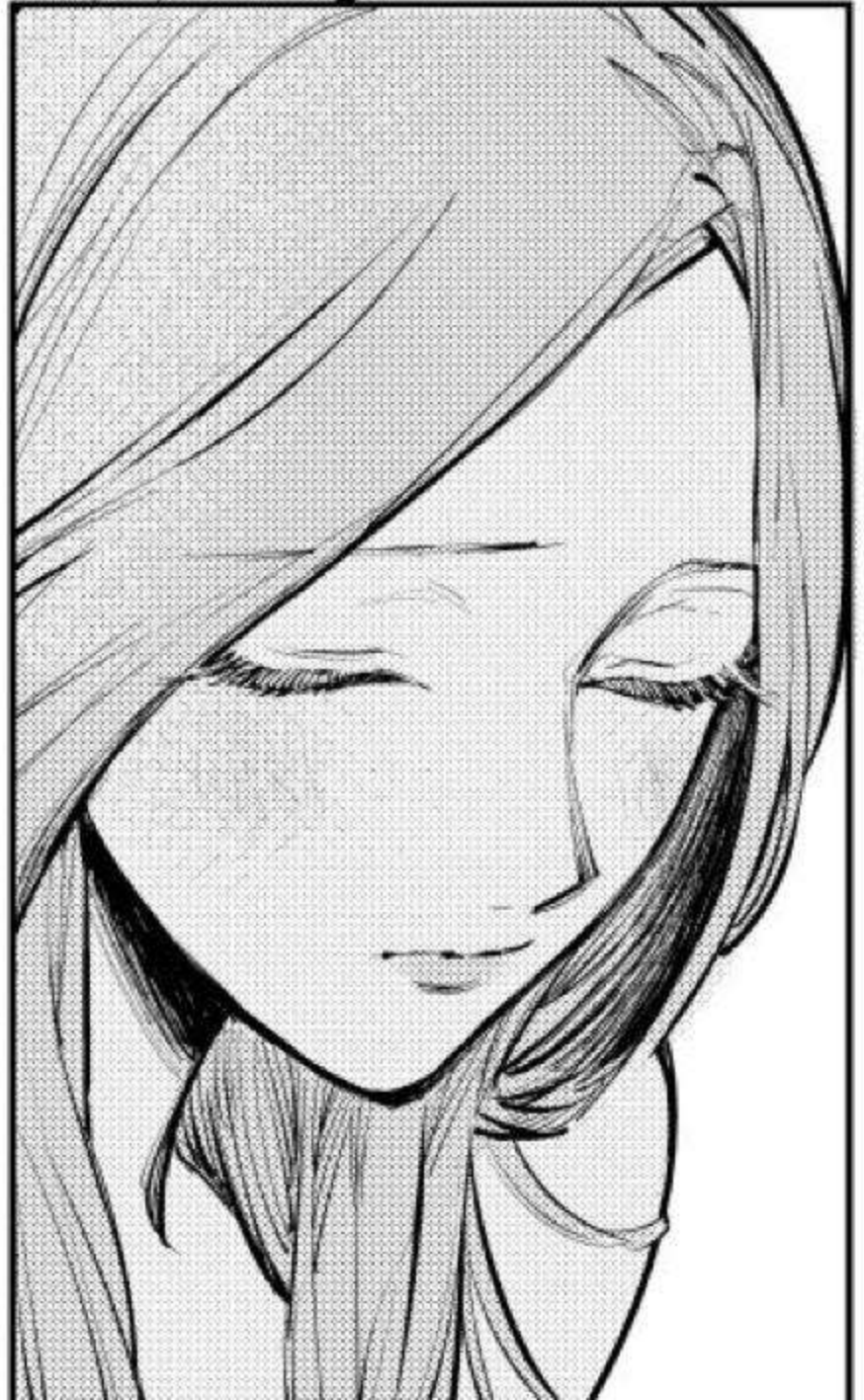


ドクン…

いけない…
この子は私の…
たった一人の…

ドクン…

けれど今…
目の前に
いるのは…
紛れもない
ベレス自身…



わかりました…

けれど…

その…
万が一にも

子が…
実らないように

お

お尻のほうで
お願いします…



あなたは
わたしの



う、うん...
ありがとう



ええ...



あの、レア...
今更だけど
本当に...
いいの？



ですが...
こういった
行為には覚えが
ないもので...

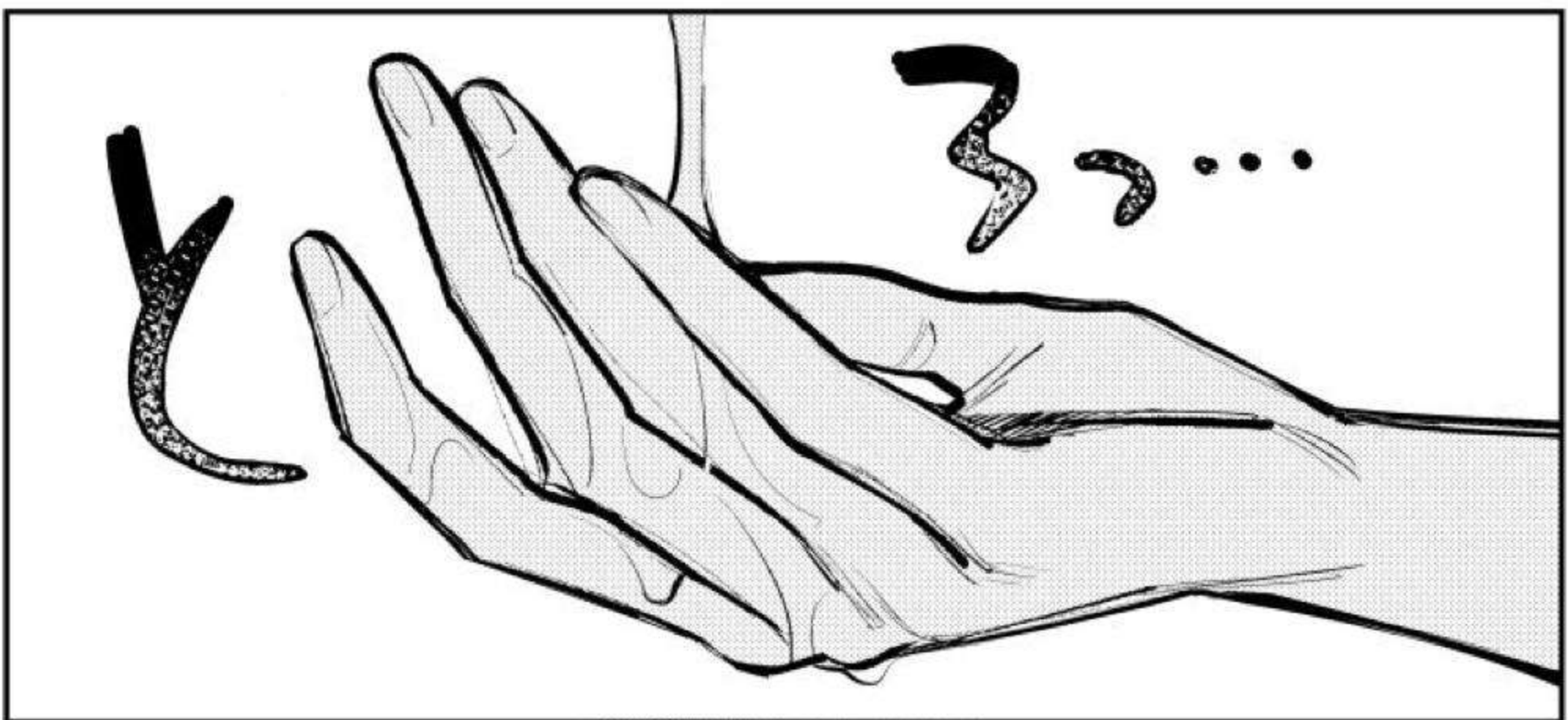


痛くない
ように
するから...

うん...



お願い
します...
できるだけ
早く済ませて
くださいね...



と

っ...



はあっ

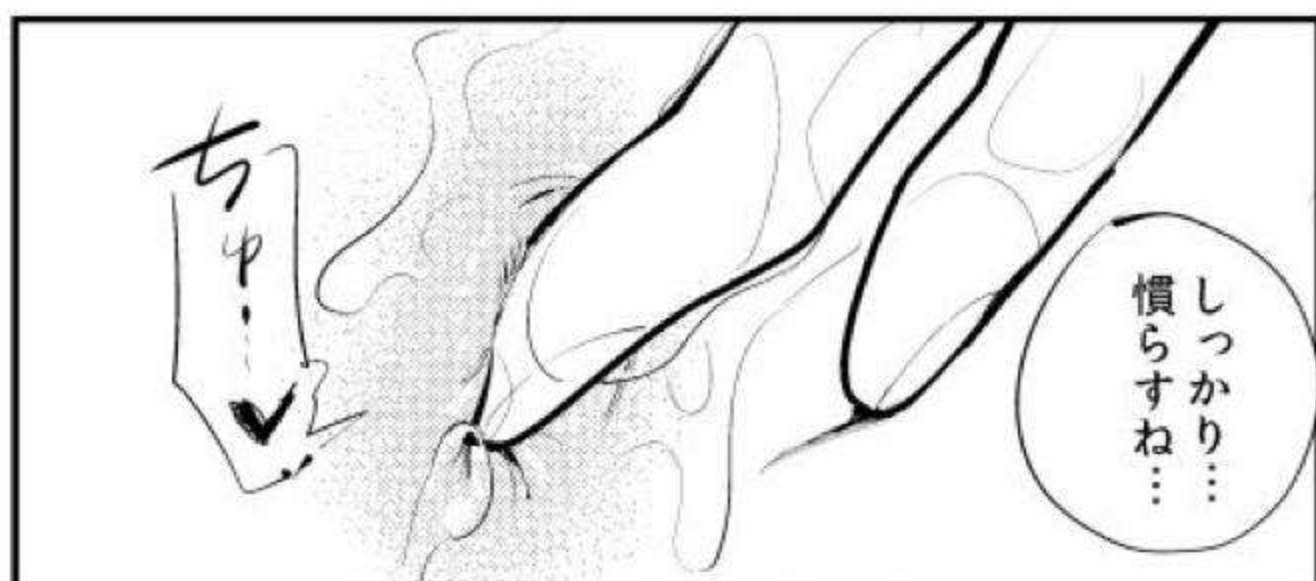


?...

ん...



?...







いっ…？

ねえ
レア：
そろそろ
入れたい…



ええ…

このまま
後ろ向きで…
お願いします…





あああ…
入ってくる…!
ベレスが…



ふうんっ…
くうっ…

ううっ…



つああ…!
レアのなか…
熱…っ…

ううっ…
ううっ…
ううっ…



んんううっ…
ふううっ

んんん



どくん...どくん...

うわっ
締まつ...

あああつっ...!!!



ベレスっ...
ああっ...だめ

そんな
奥はっ...

チヤッ

ベレス



VAっ...



ひっ...!!
ベレスっ...

ひゅっ
ひゅっ

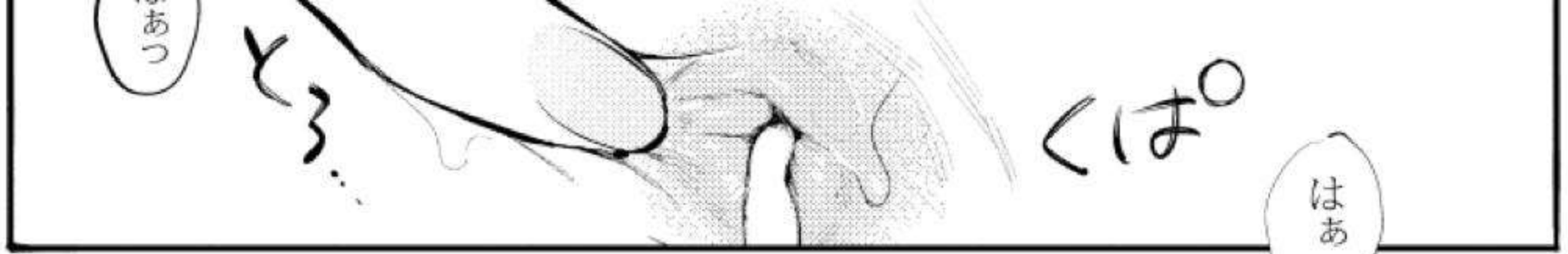
ひゅっ
ひゅっ

あつっ...!

んんうう...
あああ.....

うくっ...!
うううんっ...

チヤッ



あつ

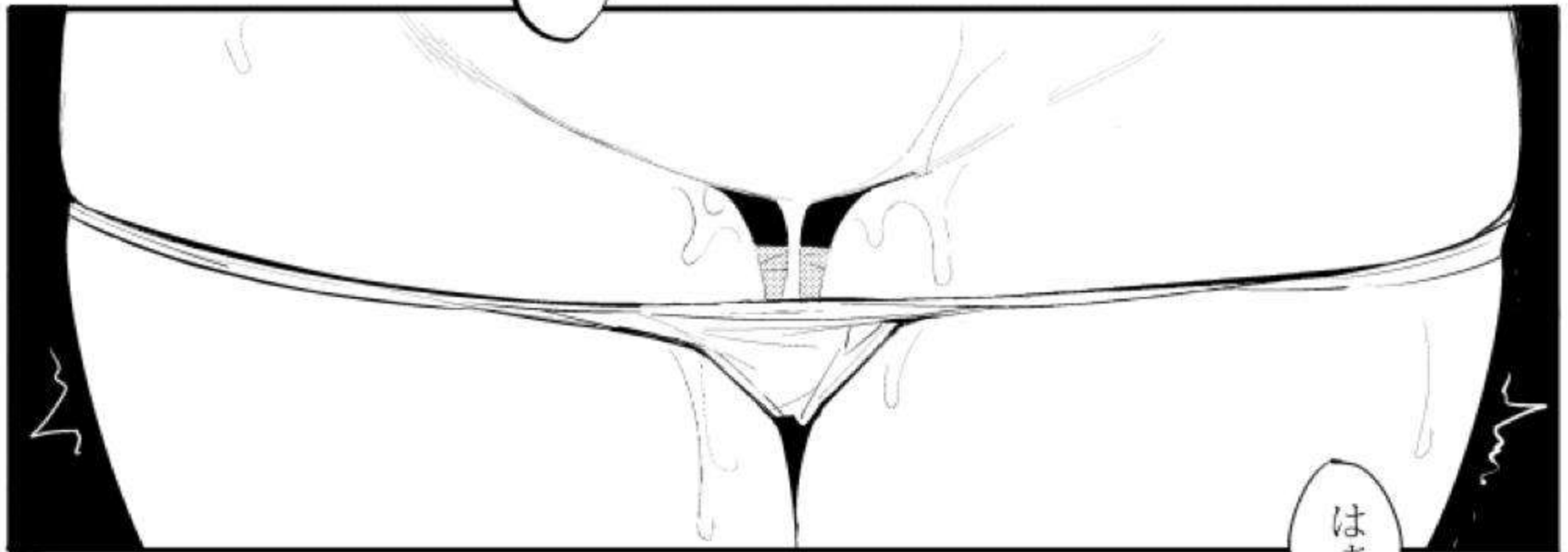
とろ...

くは

はあ



はあ



はあ



はあ

それでも
熱望は絶えず
何度も穢した



覚えているのは
レアの呼吸

体温、咽ぶ声
精液と
香油の匂い



心と体の全てが
他の誰でもない
レアを求めて
叫び続ける

翌朝
目が覚めて
無・い・こ・と・に
気がついた

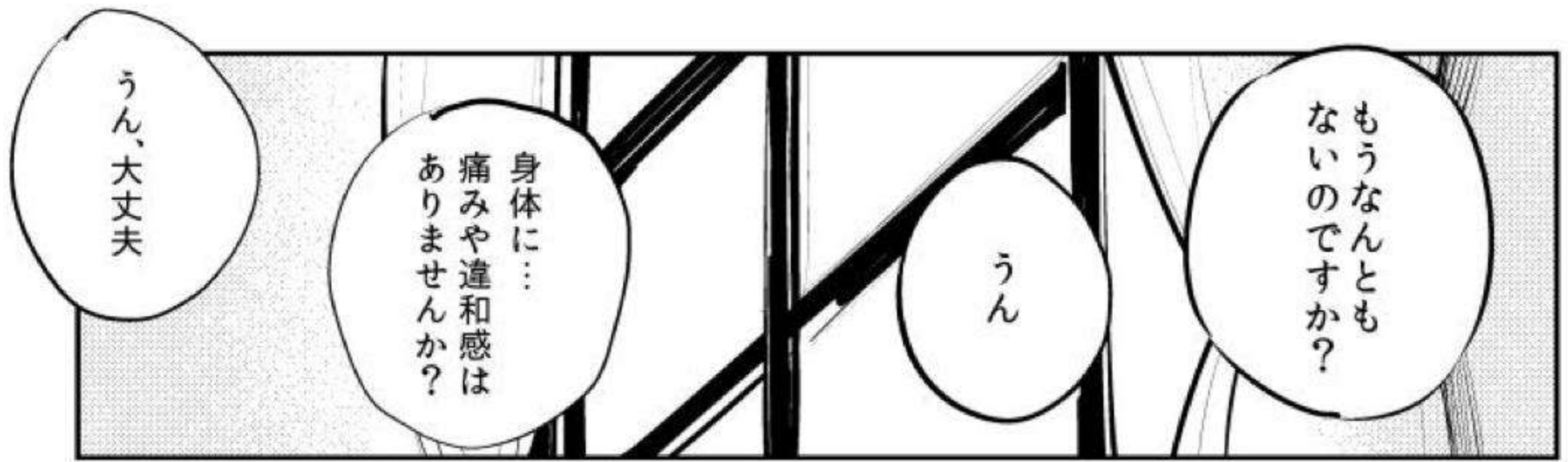


ずっと
ずっと
恐ろしかった
ものなのに

なぜか
レアとの
繋がりが
消えたか
のように
思えた



消えた...?



もうなんともないのですか？

うん

身体に…
痛みや違和感
はありませんか？

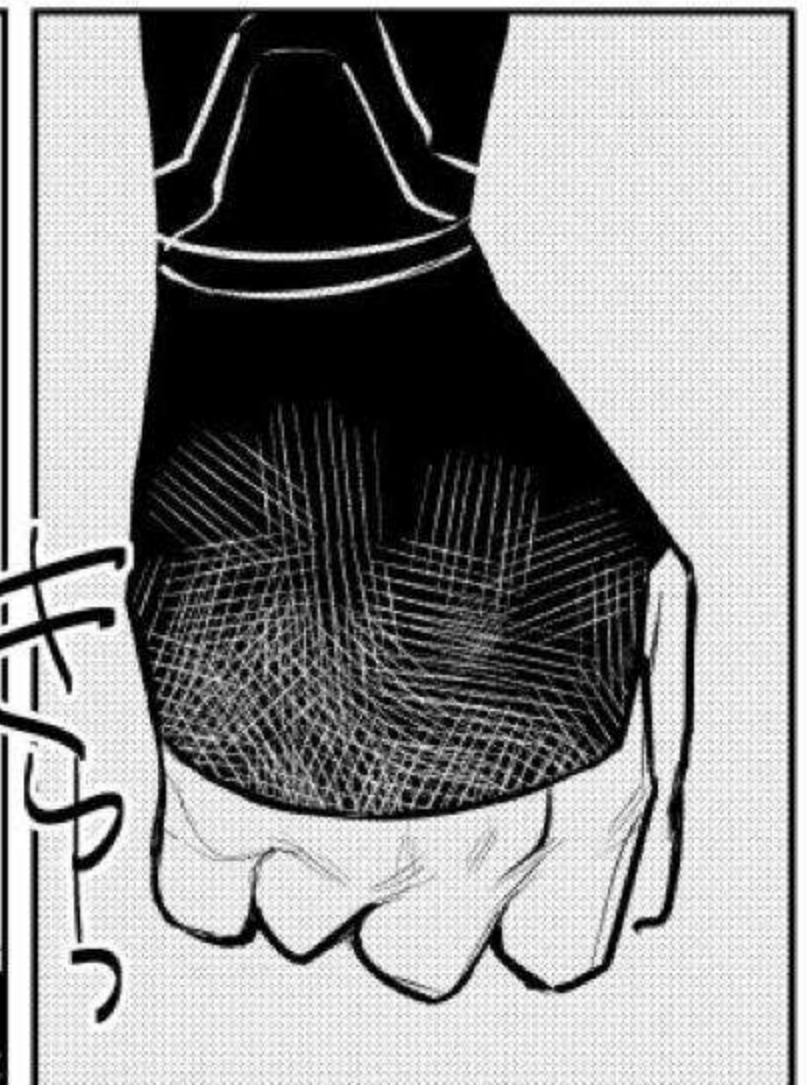
うん、大丈夫



よかった……



レア…あの





お礼を
言いたくて…



っ…

…



もしレアが
助けを必要と
する時には

自分がきつと
力になるよ



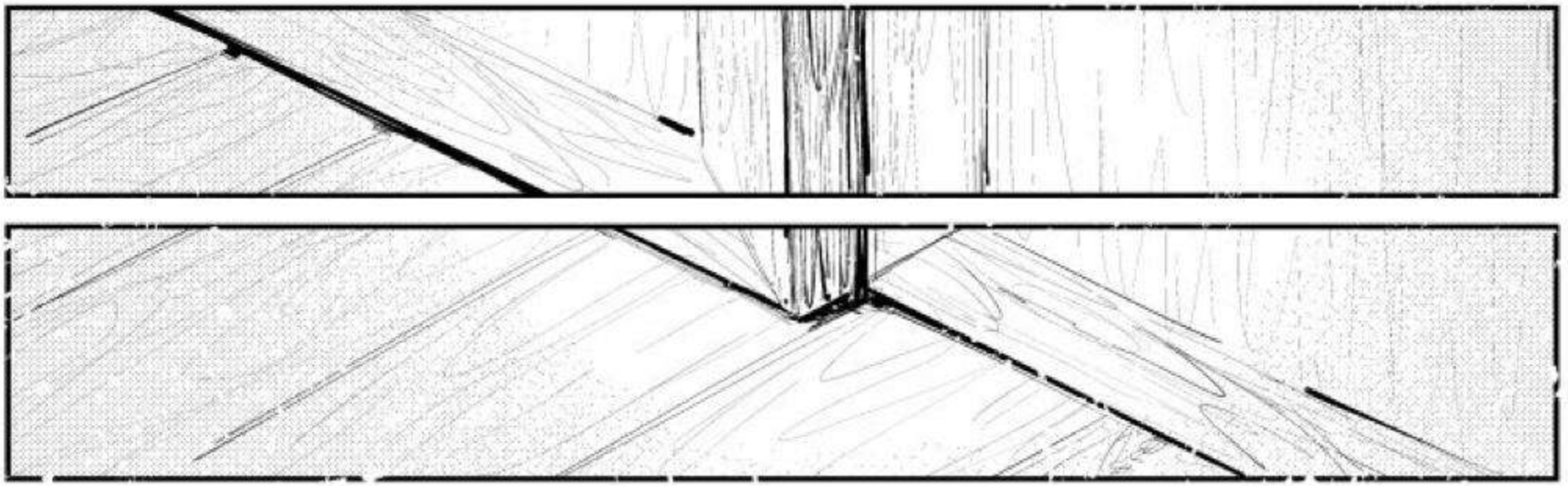
自分のために
頑張ってくれて
ありがとう…

こんなこと
言うのは
変だけど



いいですよ
ベレス

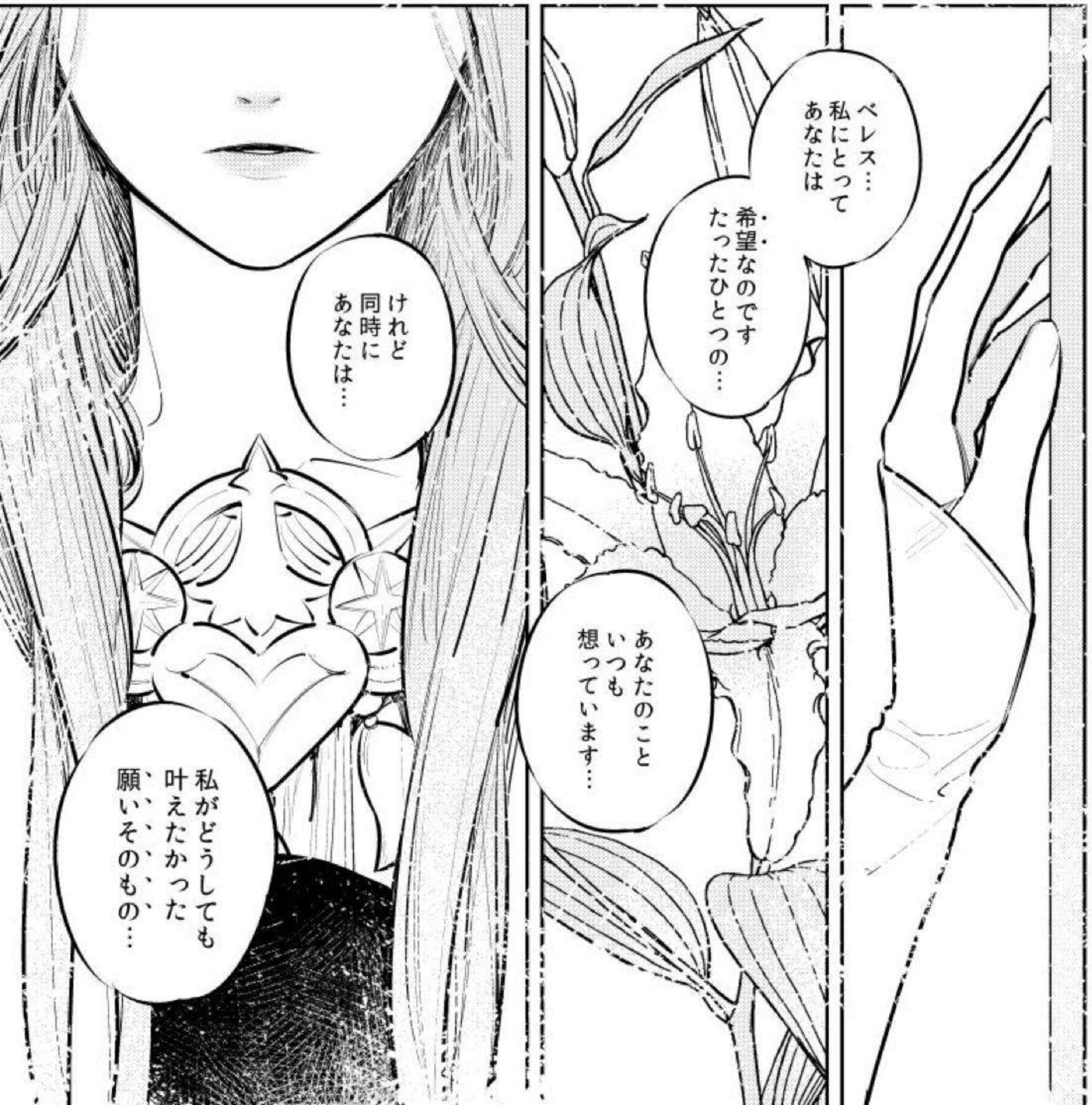
私が
そうしたくて
したから…



目の眩むような
願いが……

私に嘔き続ける
どうしても
諦められない

彼女に今も尚
その可能性が
あるのなら
叶うならば



ベレス……
私にとって
あなたは

希望なのです
たったひとつの……

あなたのこと
いつも
想っています……

けれど
同時に
あなたは……

私がどうしても
叶えたかった
願いそのもの……

愛するわけには
いかないのです

だから
どうかお願い…

そんな目で私を
見つめないで…
私はあなたを…

愛して